

令和8年3月30日

福知山市議会議長 吉見 茂久 様

予算審査委員会委員長 田淵 裕二

委員会審査報告書

本委員会に付託された議案について、審査の結果、次のとおり決定したので、会議規則第80条の規定により報告します。

記

1 委員会付託議案

【令和8年度予算】

- ・議第 93号 令和8年度福知山市一般会計予算
- ・議第 94号 令和8年度福知山市国民健康保険事業特別会計予算
- ・議第 95号 令和8年度福知山市国民健康保険診療所費特別会計予算
- ・議第 96号 令和8年度福知山市と畜場費特別会計予算
- ・議第 97号 令和8年度福知山市宅地造成事業特別会計予算
- ・議第 98号 令和8年度福知山市休日急患診療所費特別会計予算
- ・議第 99号 令和8年度福知山都市計画事業石原土地区画整理事業特別会計予算
- ・議第100号 令和8年度福知山市介護保険事業特別会計予算
- ・議第101号 令和8年度福知山市下夜久野地区財産区管理会特別会計予算
- ・議第102号 令和8年度福知山市後期高齢者医療事業特別会計予算
- ・議第103号 令和8年度福知山市水道事業会計予算
- ・議第104号 令和8年度福知山市下水道事業会計予算
- ・議第105号 令和8年度福知山市病院事業会計予算
- ・議第125号 財政調整基金の繰入れについて

【令和7年度補正予算】

- ・議第131号 令和7年度福知山市一般会計補正予算(第10号)
- ・議第132号 令和7年度福知山市国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)
- ・議第133号 令和7年度福知山市休日急患診療所費特別会計補正予算(第1号)
- ・議第134号 令和7年度福知山市介護保険事業特別会計補正予算(第3号)
- ・議第135号 令和7年度福知山市下夜久野地区財産区管理会特別会計補正予算(第1号)
- ・議第136号 令和7年度福知山市水道事業会計補正予算(第2号)
- ・議第137号 令和7年度福知山市下水道事業会計補正予算(第1号)

2 審査の概要

3月9日、10日、11日、12日に委員会を開催し、令和7年度補正予算及び令和8年度予算について、下記の審査グループごとに所属別質疑を行いました。

審査グループ① 市長公室、総務部、市民生活部、会計室、選挙管理委員会、公平委員会、監査委員

審査グループ② 健康福祉部、こども家庭部、教育委員会、市民病院

審査グループ③ 市長直轄組織、産業部、建設交通部、上下水道部、農業委員会、消防本部

また、審査グループ①においては、令和6年度決算審査を踏まえた政策提言反映質疑も行いました。その後、24日には総括質疑、25日には自由討議、討論、採決を行いました。

初めに、令和7年度補正予算の審査について報告します。

議第131号の歳入補正予算につて、「市税市民税個人分が大幅に増額となった理由」を問う質疑があり、「過去10年の給与所得は横ばいであったが、令和6年中の給与所得は約4%伸びたことが影響し増額となった」との答弁がありました。

次に、ふくちやまサポーター拡大事業について、「ふるさと納税寄付金の増収の理由」を問う質疑があり、「中間事業者の導入から3年目を迎え、ふるさと納税運営サイト上の効果が高まっている。また、日用品や米の需要に関して本市の主力返礼品に寄付が集まっていることや令和7年度に新規返礼品や返礼事業者を追加したことなどが要因と考えている」との答弁がありました。

次に、自立支援給付事業について、「障害福祉サービス給付費の増額理由」を問う質疑があり、「特に増加しているサービスは、重度訪問介護、生活介護、共同生活援助等になっている。中でも重度訪問介護は、これまでサービス提供事業所が少なく、利用できなかった状況が、令和7年度から事業所がサービスを提供できる状況になり、給付費が増えている」との答弁がありました。

次に、農地中間管理事業について、「減額補正について、農区から補助申請が無かった要因」を問う質疑があり、「本事業の地域集積協力金の補助要件について、農地集積率の国基準が大幅に引き上げられたことで、該当する本市の対象が無かった」との答弁がありました。

次に、有害鳥獣捕獲事業について、「捕獲数が見込みよりも減少した理由」を問う質疑があり、「夏の高温、渇水、秋頃のブナ、ナラなどの果実の豊作等により捕獲数が減少した。また、駆除隊員も酷暑の中で出ることが難しい状況であったと分析している」との答弁がありました。

次に、議第132号の国民健康保険事業について、「国民健康保険料の軽減にかかる増額補正の理由」を問う質疑があり、補足説明資料において、「当初予算の算定時に用いた被保険者の減少を考慮した率が実際より大きかったため、予算額と実績額に差が生じ増額補正となった」との答弁がありました。

次に、議第133号の休日急患診療所費について、「増額補正の内容」を問う質疑があり、「当初は年間1,600人の受診者数を想定していたが、1,738人の患者を見込むこととなったため増額補正となった」との答弁がありました。

次に、令和8年度予算の審査について報告します。

初めに、審査グループ①の令和6年度決算審査を踏まえた政策提言反映質疑について報告します。

政策提言項目「開庁時間見直しの検討」について、「ワークライフバランスの推進で職員が能力を発揮できる職場環境づくりの考え」を問う質疑があり、「今回の窓口時間の見直しにより、窓口以外の業務として政策立案の検討、部署内外の情報共有や連携の時間をしっかり設けることで、職員が能力を最大限発揮できる環境づくりにつなげていきたい」との答弁がありました。

次に、「開庁時間見直しのロードマップと市民周知についての考え」を問う質疑があり、「コンビニ交付の前提となる自治体システムの標準化については、京都府自治体情報化推進協議会で調整及び作業を進めており、本市の住基税系システムの標準化は、本年12月頃を目途に現在調整されている。コンビニ交付については、このシステム移行が終わってからになると考えている」との答弁がありました。また、「コンビニ交付の導入とあわせて、まずは窓口時間短縮の試行を行っていききたいと考えている。試行実施の概ね3カ月前には、広報ふくちやま、ホームページ、その他のSNS等も活用し、住民への周知をしっかりと行っていききたい」との答弁がありました。

次に、「マイナンバーカードの更新などの業務の取扱い」を問う質疑があり、「コンビニ交付は証明書発行のサービスとなり、マイナンバーカードの交付申請や戸籍の届出、住所変更などは窓口の対応として残るが、オンライン申請が進んできており、来庁し窓口に来なくとも出来る手続きは増えていくと考えている」との答弁がありました。

次に、令和8年度予算の所属別質疑について報告します。

まず、所属別質疑の審査グループ①では、議第93号の福知山サポーター拡大事業について、「目標寄付額10億円に対する経費の見込みと実質的な収入額、また新規返礼品の状況」を問う質疑があり、「ふるさと納税の費用の支払いは、寄付があったから返礼品代金を支払う形となっており、今の時点で費用等の積算は難しい。収入見込みに関しては、積立額で記載しているとおおり、5億円を積み立てる見込みである。返礼品は令和8年2月現在で1,113点であるが、令和8年度に1,200品目に拡大することを目標に取組を進めていきたい」との答弁がありました。

次に、高齢者等ごみ出し困難世帯支援事業について、「戸別収集の対象世帯の積算根拠と周知方法」を問う質疑があり、「昨年度に実施した高齢者ごみ出しに関する市内福祉事業所へのアンケートや同規模の先行自治体などを参考に200世帯を対象に設定した。周知方法は、広報ふくちやまやホームページでのお知らせを考えているが、利用世帯の条件が限定されることもあり、市内の福祉事業者等を通じて案内

が出来ないか考えている。関係部局とも相談しながら必要な方に情報が行きわたるよう検討していきたい」との答弁がありました。

次に、夜久野高原活性化事業について、「地元の声や検討委員会での意見がこの事業にどのような形で反映されてきたか」との質疑があり、「閉鎖から数年はトライアルサウンディングも行い、令和6年度には、上中下のそれぞれの地区で意見交換会を開催した上で、地域住民等をメンバーとする夜久野高原活性化検討委員会を立ち上げ、検討委員会からファームガーデンやくの、夜久野高原の活性化に関する報告書を提出いただき、それに基づき令和7年度に夜久野高原活性化方針を策定した」との答弁がありました。

また、「今回の市の上限額提示についての妥当性」を問う質疑があり、「閉鎖から5年が経過し、一定の施設改修が必要であると考えている。地元の皆さんの意見も踏まえた上で、活性化方針に基づいた整備をするにあたっては、一定の経費が必要となる。サウンディングの中でも、改修経費は行政でという意見もあり、それを受けて再スタートが切れるように検討し、一定の費用負担は必要と考えた」との答弁がありました。

また、「リニューアル施設を核として未稼働の施設も含めて施設全体の活性化を目標とすることについての見解」を問う質疑があり、「メインの5施設を核として整備したうえで、全体のリニューアルを進めるとの提案を受けており、基本協定の中でも全体活用計画を出していただき、市の承認を得たうえで実施していくという条項も設けている。最終的には全体的な整備につながるものと考えている」との答弁がありました。本事業については、複数の委員から、それぞれの視点に立って多数の質疑が出されました。

次に、ネット上の人権侵害及び被害者支援に関する条例推進事業について、「運用の実効性や課題」を問う質疑があり、「現在も削除要請やモニタリングを実施している。いわゆる人権三法に関する障害者、ヘイトスピーチ、部落差別解消で、国等が示した一定の基準があるが、それ以外のノウハウは条例が出来てから、様々な相談窓口を運用していく中で蓄積していきたい」との答弁がありました。

次に、新文化ホールについて、「新年度予算に新文化ホールの整備に関わる予算はないと思うが、どのように検討されているか」との質疑があり、「新文化ホール基本計画再検討委員会において、延べ11回の会議を重ね、令和8年1月21日に再検討結果報告書が市に提出された。その再検討結果報告書の中でも民間事業者の意見を再度聞くようにという意見をいただいております。現時点ではサウンディングを実施すべく準備を進めている。サウンディングは多額の予算等を使用せずに取り組める部分もあるので、まずはサウンディングを関係課また関係団体とも調整の上で実施し、方向性を整理してから予算要求を行っていきたい」との答弁がありました。

審査グループ①では、その他、多事業にわたって延べ16人の委員が質疑を行いました。

次に、所属別質疑の審査グループ②では、議第93号の難聴者（児）補装具給付事業について、「成果指標として制度利用者数を8人とした根拠と今後の周知方法」

を問う質疑があり、「18歳未満の子どもに対しては、これまでも助成制度があり、その実績から対象となる軽中度の難聴の方や途中で難聴になられる方などを考慮し利用人数を算出している。周知方法については、市の広報やホームページで周知するとともに、医療機関や販売・修理等を行う販売店等にも周知していきたい」との答弁がありました。

次に、ベビーファースト推進事業について、「ベビーファースト推進市民会議の立上げにかかる予算の内訳」を問う質疑があり、全体予算額236万円のうち、84万6,000円が市民会議の立上げの予算としており、内訳は報償費60万円、使用料、賃借料10万6,000円、委託料10万円、需用費4万円となっている」との答弁がありました。

次に、学校給食管理運営事業について、「小学校の給食費について、令和8年度は国の地方創生臨時交付金を充当し、保護者の費用負担がなしとなるが、令和9年度以降の方向性」を問う質疑があり、「来年度以降については、本市の財政状況や国の交付金の状況を見ながら検討していきたい」との答弁がありました。

次に、急性期病院物価高騰対策支援事業について、「物価高騰の影響がある中で市民を支える急性期病院への支援は必要であるが、急性期病院以外の市内の開業医への支援策の考え」を問う質疑があり、「国の令和7年度補正予算においては、5,341億円を投じて、医療分野における賃上げ、物価上昇に対する支援を行っている。これについては、診療所なども含め広く医療機関へ援助するスキームとなっており、物価高騰対策の制度により一定の措置がなされているものと考えている」との答弁がありました。

次に、中学校部活動地域移行検討事業について、「委託料の内容」を問う質疑があり、「委託料の内訳は、事務局の補助業務としてスタッフの人件費、部活動検討会議の検討委員への謝礼、部活動の指導員の謝礼などとなっており、残りは運営経費等の諸経費となっている」との答弁がありました。

次に、議第94号の国民健康保険事業について、「国保人間ドック事業の利用状況」を問う質疑があり、「直近3年間の利用実績は、令和5年度が797人、令和6年度が825人、令和7年度は見込みで829人となっている。令和8年度は850人を見込んで予算計上している」との答弁がありました。

次に、議第95号の国民健康保険診療所費について、「三和診療所が8月から開設予定となり、国保診療所の設置を大きく評価をしている。安定した経営収入を得るためには、1日の平均的な受診者数は、どの程度の積算をされているのか」との質疑があり、「診療所の経営については、1日12人で積算しているが16人程度で黒字になるシミュレーションをしている」との答弁がありました。

次に、議第100号の介護保険事業について、「介護給付費の前年度比較と施設の稼働状況」を問う質疑があり、「令和7年度当初予算と比較すると1.15%の増となっている。この算定については、3年間をスパンとして高齢者保健福祉計画（介護保険事業計画）に基づき、直近の高齢者人口、要介護者認定などの推移から予算を計上している。特別養護老人ホームについては、稼働している施設は満床で待機がおられる状況となっている」との答弁がありました。

また、「在宅高齢者配食サービス事業の配食の見込数と委託の内訳」を問う質疑があり、「市内を3区域に分け事業者と契約しており、令和8年度の内訳は、桃映・南陵・北稜・大江圏域が月4,500食、日新・六人部・三和圏域が月3,800食、川口・夜久野・成和圏域が月2,900食、合計で2,861万1,000円の委託料となる」との答弁がありました。

次に、議第105号の病院事業について、「令和8年度予算編成の分析」を問う質疑があり、「令和6年度決算については15年ぶりの赤字決算となった。令和7年度においても人件費の高騰や物価上昇が続き、非常に厳しい状況が続いている。令和8年度の予算については、それらの状況も踏まえ、必要な医療人材や医療機器を確保したうえで、病床の確保と利用率のアップなどにより、人員と施設機能を最大限利用して収入の確保を図っていきたい」との答弁がありました。

審査グループ②では、その他、多事業にわたって延べ14人の委員が質疑を行いました。

次に、所属別質疑の審査グループ③では、議第93号の消防団活動事業について、「消防団の資機材や被服の購入等の内訳」を問う質疑があり、「備品購入費は416万6,000円としており、内訳は、貸与被服、物品等として消防団員の防火衣75万5,000円、その他の機械器具として、自動車用消火器22,900円、消火用ホース184万8,000円、AED4台154万円、消火器2本3万6,000円となっている」との答弁がありました。

次に、福知山鉄道館運営事業について、「黒字にするための予算となっているか」との質疑があり、「鉄道館の経営改善プランは、現在、年度内の策定を目指しており、可能な限り早期に赤字を縮減し、収支均衡を図ることを目的としている。随時、様々な取組を行い、ブラッシュアップをし続ける計画としている。内容は、お城と美術館等の開館日の変更とあわせて、フクレルも水曜日を休館日とする新たな設定を行う。それにより、収支では人件費について約600万円の削減が見込める。また、経費がかからない形で各種取組と企画を進め、収支のバランスをとっていきたいと考えている」との答弁がありました。

次に、都市計画情報等インターネット公開事業について、「新規事業として、3,005万円が予算計上されているが、京都府・市町村共同統合型地図情報システム（公開型GIS）はどのようなもので、他市町との連携はどのように行われるのか」との質疑があり、「公開型GISは自治体が保有する都市計画図や施設情報などの地図情報をインターネット上で、誰でも閲覧利用できるようにしたウェブサービスとなっている。他市町村との連携はない」との答弁がありました。また、「具体的なGIS活用の内容」を問う質疑があり、「公開の内容は、1/2500の地形図、都市計画規制情報、土地区画整理事業成果、道路台帳平面図幅員について公開していく予定としている」との答弁がありました。

次に、議第99号の石原土地区画整理事業について、「令和7年度と比較し予算規模が半分以下と大幅に減っている理由と現在の売却状況」を問う質疑があり、「令和

7年度2月末現在で大区画を含む18筆を売却したことが減額の要因である。令和6年度末に34区画残っていたが、令和8年度は16筆からのスタートとなる」との答弁がありました。

次に、議第103号の水道事業、議第104号の下水道事業について、「給水戸数と処理戸数が増えている一方で給水量と処理人口、処理水量が減少している要因と収支への影響」を問う質疑があり、「戸数については、アパートや新築住宅の建設により若干の増加傾向にある。1人当たりの給水量、処理水量は大きな変化はないので、収入となる給水量、処理水量が減少しているのは人口減少の影響が大きいものと考えている。この影響は今後も続くと考えており、経営にも大きな影響があると分析している」との答弁がありました。

また、下水道事業について、「4月から稼働する福知山市汚泥処理施設の予算内容」を問う質疑があり、「汚泥処理施設の維持管理費については、下水道事業会計の事業費用、処理場費の委託料として計上している。契約の総額は59億4,000万円で、令和8年4月1日から令和28年3月31日の20年間の維持管理契約となっている。令和8年度の予算分は2億3,265万円となっている」との答弁がありました。

審査グループ③では、その他、多事業にわたって延べ17人の委員が質疑を行いました。

次に、総括質疑について報告します。

初めに、財政的持続性と出口戦略について、「人口減少対応型の行政運営だけでなく、人口維持、人口増加や仕事づくりにつながる未来投資の経営視点が必要ではないか」との質疑があり、「本市は北近畿において、交通の結節点であり、長田野工業団地をはじめとする企業集積による雇用の場、福知山公立大学をはじめとする教育機関の充実など、他の市町と比較して有利な条件を持っている。現実を直視し、人口減少への備えを行うとともに、本市の強みも最大限活かし、更なる民間投資につながる取組の可能性も探りつつ、可能な限り人口減少の緩和を図るとともに、圏域において中心的な役割を担うまちを目指していきたい」との答弁がありました。

次に、新たな産業誘致に対する市の将来戦略について、「長田野工業団地は市にとって重要な基盤であるが、市の将来展望において新たな産業誘致の考え方は」との質疑があり、「長田野工業団地は本市の経済、産業、都市基盤を力強く支える拠点として大きな役割を果たしており、加えて、就業者の消費活動による経済効果も極めて大きいと考えている。しかし、近年、立地企業からは増設や更新にあたり用地の拡張に関する相談があり、新たに立地を検討している企業からも、工場用地に関する問い合わせをいただいている。このような状況を踏まえ、工業団地の拡張や企業ニーズを踏まえた新たな工場用地に係る調査を行うこととしており、令和8年度予算に調査費を計上している」との答弁がありました。

次に、まちづくり構想の推進について、「これまでの総括と今後の展望」を問う質疑があり、「令和6年度末時点で、まちづくり構想のそれぞれの施策の達成度を

測る109の成果指標のうち、80%以上達成している指標が85指標となっている。一方で市民が取り組むまちづくりについては、市民懇談会でまとめられた21の提案について、自治基本条例推進委員会において、その情報発信や提案の具現化の検討等に取り組んでいただいた。その中で、市民が取り組むまちづくりの提案については、実現に向けた進め方の課題も見えてきた。今後の市の取り組みとあわせて全体的に評価を出していくこととしている。来年度、策定に取り組む次期まちづくり構想については、現在のまちづくり構想の評価検証、2040年市民会議の議論や提言などを踏まえ、人口減少や気候変動、AIの急速な進展、大きく変貌する世界秩序なども念頭にしながら、社会経済価値観も変わっていく時代に対応したのものとしていかなければならないと考えている」との答弁がありました。

次に、道の駅ファームガーデンやくのについて、「令和8年度で予算計上している設計業務において、やくの高原市をどのようにリニューアルするのか」との質疑があり、「提案事業者からは、道の駅のフロントとして、農産物等の販売だけでなく、調理や試食が可能なスペースの設置などの提案を受けている。この提案を基に、施設の魅力を高め、地域の方や来訪者が気軽に入りやすい、利用しやすい施設としてリニューアルしたい」との答弁がありました。

次に、事務執行の適正化と事務改善に向けた予算反映について、「職員のやる気のでる職場環境づくりについての予算や取組」を問う質疑があり、「業務の見直しやデジタル技術の活用、事務執行に係る規則等を見直しなどを引き続き行い、時間外勤務の縮減などに取り組むことで、安心して働ける職場環境を整えていきたい。また、今年度から試行開始した庁内職場体験、庁内公募制度の効果を検証しつつ、職員のキャリア形成を支援するとともに、職場内のコミュニケーションの促進に努め、職員の意見を業務改善に反映できる仕組み作りを進めていきたい」との答弁がありました。

次に、令和7年度子育て支援施策の事業成果を踏まえた令和8年度予算への反映について、「地域全体で子育てを支える機運の醸成について、どのように令和8年度予算に反映されたか」との質疑があり、「子どもの健やかな環境づくりの具現化の1つとして、令和7年度において、事業者、地域団体、行政が一緒になって子どもを産み育てたくなる社会の実現をめざし、福知山市ベビーファースト宣言を行い、5つのアクションプランに基づき、その取組をスタートさせた。令和8年度予算では、アクションプランに基づき、ベビーファースト推進市民会議の立上げなど、市内の様々な関係者や庁内の連携を図りながら、子育てにやさしいまちづくりの機運の醸成を市民運動として進めていきたい」との答弁がありました。

次に、施策の優先順位と民意反映について、「新年度予算において財政状況と市民の肌感覚とのギャップを埋めることに注力されたうえでの予算となっているか」との質疑があり、「諸物価の高騰や義務的経費の増により、非常に厳しい予算編成であったが、そうした中であっても、「幸せを生きるまち」を創造していくために、縮小思考におちいることなく、財源を確保したうえで、市民生活に目を向け喫緊の課題に対応しつつ、市民の生活の質を高め、活力あるまちづくりに資する事業を進めていく予算を編成した」との答弁がありました。

次に、令和8年度予算審査を踏まえた自由討議を行いました。

- 1 小学校への生理用品配備の拡充について
- 2 市民に愛される施設となるには

上記2テーマについて、提案会派から提案理由と論点の説明が行われ、自由討議においては、各委員から活発な意見が出され、この自由討議の内容は、今後、予算審査委員会の中でまとめを行う予定である。

次に、討論を行いました。

反 対

- ・議第93号について反対する。令和8年度福知山市一般会計予算のうち、夜久野高原活性化事業は、懸念点があまりにも多く議論も深まっていない。また、遊び場の整備について、三段池のリトルハピネスとの役割分担が不明確である。さらに、5年後の全体活用計画を市がどのような基準で判断するのか、残りの施設の責任区分をどう整理するのかなどが不明である。将来世代の過大な負担を残さない施設となるために、その条件が曖昧と考えることから反対する。
- ・議第93号、議第94号、議第102号について反対する。議第93号の令和8年度福知山市一般会計予算については、夜久野高原活性化事業は、市民への説明責任を果たす中で、拙速に事業を進めることなく、福知山市がファームガーデンやくのを公有財産として将来展望をしっかりと示すべきである。また、同和対策特別措置法失効後も補助金の支出や特別施策が実施されている。また、自治会長は地方公務員法改正の趣旨に反する特別職非常勤の地方公務員としての任用はやめて、自治会に助成措置をすべきである。議第94号の令和8年度福知山市国民健康保険事業特別会計予算は、令和7年度22%の引き上げに続き、令和8年度は7%の引き上げとなり、物価高騰の中で、被保険者の保険料支払いは限界を超え、社会保障制度としての国民健康保険事業とはなり得ない。議第102号の福知山市後期高齢者医療事業特別会計予算については、受けられる医療が差別される制度設計となっている。以上の理由により3議案について反対する。
- ・議第93号について反対する。令和8年度一般会計予算うち、ファームガーデンやくのは、現段階において、補助金適正化法や地域の住民の合意、説明が十分ではないため反対する。
- ・議第93号について反対する。夜久野高原活性化事業については、委員会でもっと議論を尽くすべきである。自由討議においても、もっと意見がある方もいたと思う。言論の府である我々議会が、議論を尽くさずに終わることは残念である。その上で、夜久野高原の活性化は、必須で非常に重要なことであるから

付帯決議をつけて、住民協働や財政破綻に至らないよう協定も簡単に結ばずに、どうすれば市民が進んで、ここに参画できるかをしっかりと議論すべきである。以上の理由から、一旦ここでは反対する。

賛成

- ・議第93号から議第137号のうち、既決の3議案を除く全21議案について賛成する。令和8年度予算は「まちづくり構想福知山」の最終年度であり、厳しい財政下で経費精査と将来への投資が両立された編成と評価する。一般会計は、過去最大規模の484億8,000万円であるが、市税、ふるさと納税の確保と投資的経費の抑制による市債削減など、工夫が見られる。夜久野高原活性化事業については、地域住民の皆さんも交え、ここ数年来検討してきたことがようやく前進することとなり、事業の円滑で着実な推進を期待する。特別会計は、令和8年度と同規模の安定的な編成であり、持続可能な運営が図られている。企業会計のうち病院事業は、材料・給与費や新棟建設費により予算規模が拡大しているが、診療報酬等の増収も見込まれる。地域医療の充実に向け、着実な事業運営を期待したい。上下水道事業については、人口減少下でも市民インフラを守る堅実な経営を求める。全体としてふるさと納税や財産活用による財源確保、AI導入による効率化など、歳出抑制とサービス向上への工夫がなされている。令和7年度補正予算についても、公共交通維持や除雪費など、市民の命と暮らしを守る必要な予算と認める。以上の理由により全議案に賛成する。

3 審査結果

- ・議第 93号 賛成多数で原案可決
- ・議第 94号 賛成多数で原案可決
- ・議第 95号 全員賛成で原案可決
- ・議第 96号 全員賛成で原案可決
- ・議第 97号 全員賛成で原案可決
- ・議第 98号 全員賛成で原案可決
- ・議第 99号 全員賛成で原案可決
- ・議第100号 全員賛成で原案可決
- ・議第101号 全員賛成で原案可決
- ・議第102号 賛成多数で原案可決
- ・議第103号 全員賛成で原案可決
- ・議第104号 全員賛成で原案可決
- ・議第105号 全員賛成で原案可決
- ・議第125号 全員賛成で原案可決

- ・議第131号 全員賛成で原案可決
- ・議第132号 全員賛成で原案可決
- ・議第133号 全員賛成で原案可決
- ・議第134号 全員賛成で原案可決
- ・議第135号 全員賛成で原案可決
- ・議第136号 全員賛成で原案可決
- ・議第137号 全員賛成で原案可決